

大都市イメージの構造と大都市評価

1. 研究 1
2. 研究 2
3. 研究 3

加藤 義明*
 詫摩 武俊*
 山本 真理子**
 林 洋一***

要 約

本論文は、本文でも述べてあるように4つの学会発表を編集しなおしたものである。研究は、大きく分けると3つある。

研究1：大都市のイメージ構造の検討

研究2：大都市への憧れと居住希望の検討

研究3：大都市評価の再検討

研究1、2のために函館市、水戸市、名瀬市、喜界市の小、中、高校生計1,427人に対してアンケート調査を行なった。また、成人男子についてもこれらの地域から411人について上とほぼ同じ内容のアンケートのデータを得た。研究3のためには、鳥取と壱岐で小、中、高校生計615人、成人男女計1,828からデータを得た。

調査内容は、前掲の「地方在住者の大都市イメージ」で用いたアンケート項目と同じである。アンケートの中心となる項目は22にのぼる大都市、ならびに自分の居住する所についての印象をきいたものである。

得られた結果の主なもの次とおりである。大都市についてのイメージを数量化Ⅲ類によって構造分析した結果5つの軸が得られた。第1軸は「生活のしやすさ」、第2軸は「都市へのマイナス・イメージ」、第3軸は「不便さ」、第4軸は「解放感」、第5軸はまとまった解釈ができなかった。

第1軸と第2軸を組み合わせてみると高校生と成人男子が全く逆のイメージを持っていることがわかった。すなわち、高校生は、都会が生活しやすい所というイメージが強いのに対して、成人男子では、生活しにくいというイメージが強い。また、大都市に近い所に居住する者、人口が多い所の居住者もマイナス・イメージが強い。

都市イメージと居住希望との関係を見ると全体では、大都市が好きだ、楽しい、遊ぶところが多い、よい学校がある、のびのびとしたというイメージを持っている者は居住希望が強い。しかし、両者の結びつきの様相は、年齢にも関わっていて、高校生と成人男子では、かなり異なっている。高校生は、全年齢の中で最も居住希望が強く、成人男性が最も

*東京都立大学都市研究センター・人文学部

**帝京科学技術大学

***白百合女子大学

低いのであるが、前者は自分が現在居住している所への反発、ないしはイメージの悪さから大都市居住を希望しているのに対して、後者は大都市の特性にひかれて居住を希望していることがうかがえる。

とはいうものの大都市居住を希望する者でも、高校生の場合、自分の住んでいる所を有意に生活しやすい、楽しいといているし、成人男子でも大都市を公害が多い、わずらわしいとしており、それぞれ大都市居住希望と居住地への愛着というアンビバレントな気持が存在することがうかがえる。

前の研究（「地方在住者の大都市イメージ」）や本研究の前半で得られた結果を再検討するために、ほぼ内容の同じ調査を壱岐と鳥取で行なった結果は次のとおりであった。

大都市のイメージはいままでと殆ど同じで、否定的なものとしては、「犯罪が多い、公害が多い、ごみごみしている、危険、空気が汚い、自然が美しくない、生活しにくい」などである。また、肯定的なものとしては、「派手、明るい、いそがしい」などが有意に多かった。現在居住している所のイメージは、以前の研究とやはり同じで好意的なイメージが多い。しかし、高校生まで年齢を追ってその比率が下がってくる。

大都市居住者と居住地居住者に対する評価も「センスのよさ」だけは大都市がよい評価を受けるが、他の「嫌い、付き合いにくい、つまらない、つめたい、無関心、信用できない」は大都市居住者が低い評価を受けている。この傾向も以前の研究と同じである。

本論文は、1984年と1985年の日本教育心理学会（第26回、および第27回）で発表した4つの論文を再編集したものである。論文は3つの研究からなっている。研究1は、大都市のイメージ構造の検討、研究2は、大都市への憧れと居住希望の検討、研究3は、大都市評価の再検討である。これより研究毎に結果を示し、検討を行なっていく。

研究1：大都市のイメージ構造の検討

研究2：大都市への憧れと居住希望の検討

研究3：大都市評価の再検討

1. 大都市のイメージ構造の検討

1.1 目的

環境心理学的な興味から大都市や自己の居住する場所の認識に関する研究が、最近では少なからず発表されるようになってきた。都市の居住者が居住都市に対していただくイメージの分析（Lynch, 1960）や、大都市が個人の行動に与える影響の検討（Milgram, 1970）などが行なわれている。また、土地のイメージを、居住住居形態の違い（岡崎、駒崎, 1978, 1979）や土地の物理的位置（菅野・田中ら, 1981 a, b）、そして、

居住地（都市周辺か地方か）の差などから検討しようとする試みがなされている。そして、加藤（1984）は、「都市イメージの分析Ⅰ」として、地方在住者がいただく都市イメージ、居住地イメージの分析を、居住地（都市周辺か地方か）の違いと居住者の年齢的な変化を中心に検討を行なっている。その結果は次のとおりである。

a. 大都市に共通して認められるイメージは、「文化の程度が高い、よい学校がある、よい働き口がある、わずらわしい、こわい、人が冷たい、生活しにくい、健康的でない、犯罪が多い、公害が多い、のびのびとしていない、きたない、交通が便利、食物の種類が多い、立派な人が多い」などである。

b. 地方住民の大都市観をみると若年時には大都市にあこがれを感じ、住んでみたい、大都市へ進学したいなどの希望があるが、生活基盤を地元で得るようになってくるとそのような気持ちはなくなる。

そこで、本研究は、「都市イメージの分析Ⅰ」（加藤, 1984）の結果をもとに、大都市イメージの構造を検討し、それらが居住都市の特性と居住者の年齢によってどのように異なるかを検討する。

1. 2 方法

1. 調査項目について

「大都市」および「いま住んでいる所」についてどんなイメージを持っているかを22項目にわたって質問した。回答方法は、「はい」、「いいえ」の2件法である。また、大都市での居住希望なども合わせて質問した。

2. 調査対象について

調査対象は以下の4地域の小学生から壮年期の男性まで年齢別に各4グループである。原則として各地区とも小学生は5年生、中学生は2年生、高校生も2年生とした。そして、有効サンプル数が100を越えるようにした。壮年期男性のデータは、中学生の父親ないしは高校生の父親とした。

調査の対象地となったのは、次の4地域である。

函館市：人口30万をかかえる中都市であるが、産業基盤が薄い。

水戸市：函館市と同じく30万都市であるが都会型の中都市。

名瀬市：人口5万の地方の小都市。

喜界市：確固とした産業のある人口1万の地方の小都市。

3. 調査手続きについて

アンケートの配布と回収は、各地の教育委員会の協力を得て、小、中、高校にまかせた。各校では、生徒に対しては授業中に、父親については持ち帰り方式とした。

1. 3 結果と考察

大都市のイメージを測定するのに用いられた22項目のうち、回答率に極端な偏りのある4項目を

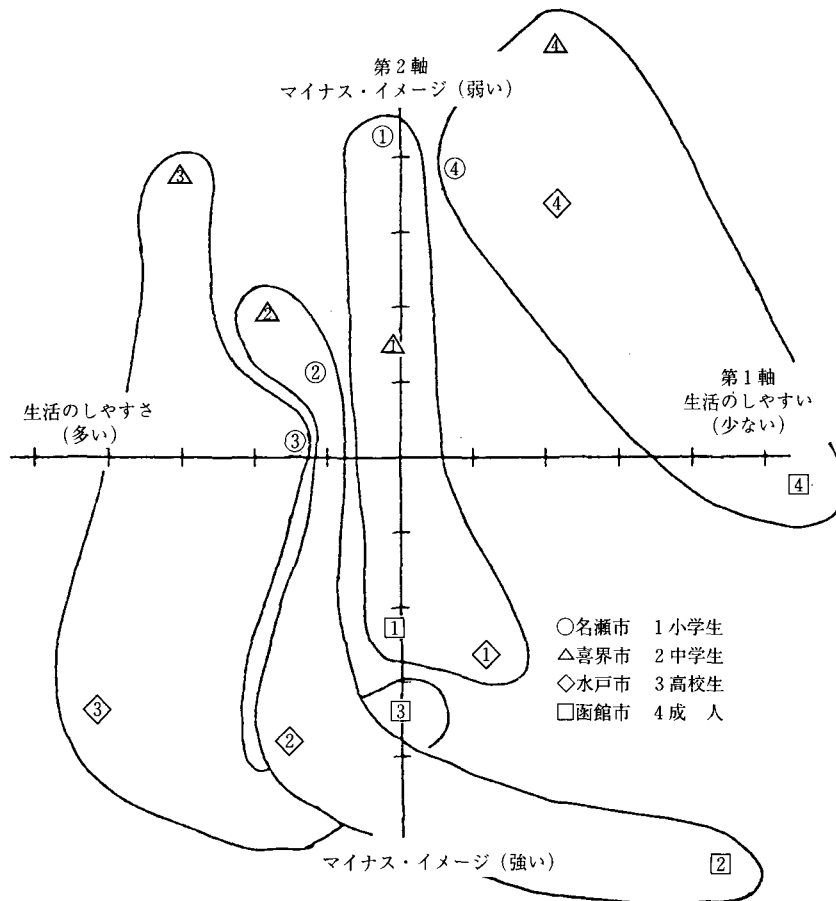


図1. 地域×年齢別にみた大都市のイメージ (第1軸×第2軸)

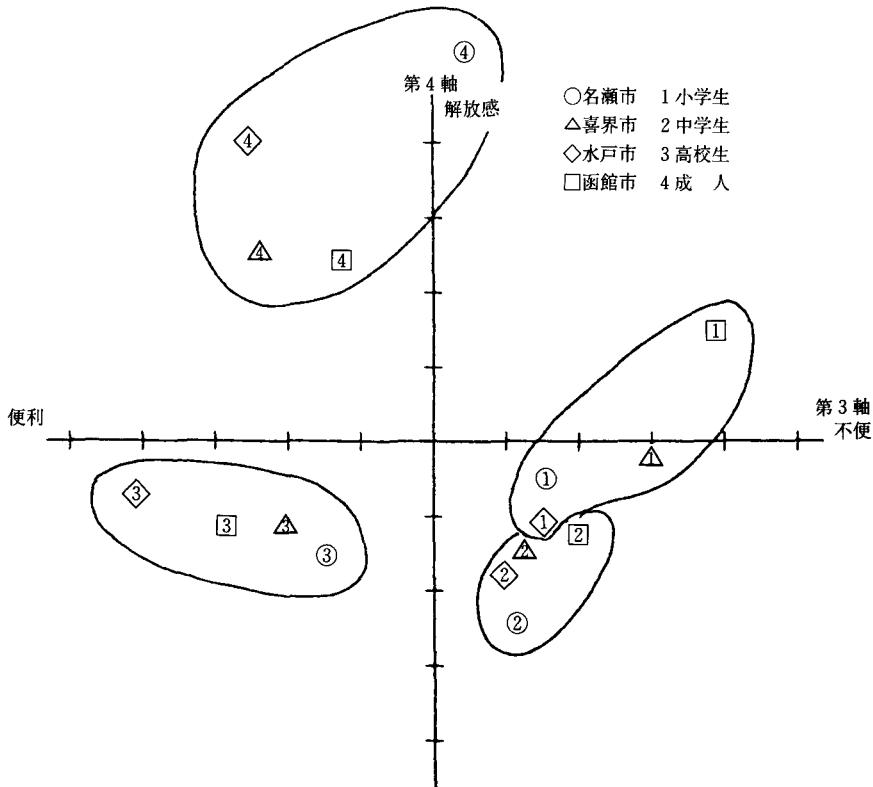


図2. 地域×年齢別にみた大都市のイメージ (第3軸×第4軸)

削除して、数量化Ⅲ類による構造分析を行ない、大都市イメージの基本的な構造を探った。

その結果、第1軸には、プラスの方向にカテゴリー・ウエイトの高いものとして、「楽しい (いいえ)」、「好きだ (いいえ)」、マイナスの方向には、「生活しやすい (はい)」、「のびのびとした (はい)」、「健康的でない (いいえ)」、「生活しにくい (いいえ)」などの項目が並んでいる。第1軸は、「生活しやすさ」の軸と考えられる。

第2軸は、「食物の種類が多い (いいえ)」、「よい学校がある (いいえ)」、「人が冷たい (いいえ)」、「こわい (いいえ)」、「よい働き口がある (いいえ)」、「立派な人が多い (いいえ)」、「健康的でない (いいえ)」などの項目のカテゴリー・ウエイトが高い。第2軸は、都市へのマイナスのイメージ全体を表わしていると考えられる。

第3軸は、「交通が便利 (いいえ)」、「よい学校がある (いいえ)」、「遊ぶところが多い (いいえ)」、「のびのびとした (はい)」、「外国のようだ (はい)」などのカテゴリー・ウエイトが高い。第3軸は、不便さに関する軸と考えられる。

第4軸は、「楽しい (いいえ)」、「きれいだ (はい)」、「好きだ (いいえ)」、「わずらわしくない (はい)」、「のびのびとした (はい)」など、解放感を表わす軸であると考えられる。

第5軸は、マイナスに「のびのびとした (はい)」、「食物の種類が多い (いいえ)」、「きれいだ (いいえ)」が高く、プラスには「遊ぶところが多い (いいえ)」、「生活しにくい (いいえ)」、「きれいだ (はい)」が高い。

そこで、地域別×年齢別にY値の平均値を求めて、第1軸と第2軸、および、第3軸と第4軸の平面上に対象者をそれぞれプロットしてみた。

図1は、「生活のしやすさ」(第1軸)をX軸に「大都市のマイナス・イメージ」(第2軸)をY軸にとり、地域および年令的な変化をみたもので

ある。それによると、第1軸については、高校生と成人男子が全く対称的な位置にいるのが分かる。高校生は大都市に対して「生活しやすい」というイメージを抱いているのに対して、壮年期男性は反対に「生活しにくい」というイメージを抱いている。小学生や中学生は両者の中間に位置し、そのイメージは、前二者に比べると不明瞭である。また、大都市のマイナス・イメージは、年令的な変化より居住地の特性の方が関係が強い。名瀬市、喜界町の対象者は、いずれの年令段階でもマイナス・イメージが弱いのにに対して、水戸市、函館市では壮年男性を除いたほとんどがマイナス・イメージが強い。都市規模が大きくなり、大都市の近くに居住する者ほどマイナス・イメージを持っているといえる。図2は、同様に、「不便さ」（第3軸）をX軸に「解放感」（第4軸）をY軸にしたものである。これらの軸では、地域特性の違いは認められず、不便さの認識においては、小、中学生対高校生、成人男子という対比が、また、解放感の認識においては、成人男子対中、高校生という対比が見られる。

2. 大都市への憧れと居住希望の検討

2.1 目的

研究1に引き続き、ここでも、大都市のイメージについて検討する。

加藤(1984)の「都市イメージの分析I」で、地方居住者の大都市観を調べると、若年者に大都市へあこがれを感じているものが多く、住んでみたい、大都市へ進学してみたいとの希望が強いと報告されている。近年は、かつてに比べるとその勢いは減少したと伝えられるが、それでも、いまなお、毎年多くの若者が大都市にあこがれ、大都市へやってくる。彼らは何を求めて、故郷を離れるのであろうか。ここでは、そのような若者の大都市へのあこがれがどのようなものに規定されるのかを検討したい。

2.2 方法

調査項目、調査対象などは、前報告と同一。

2.3 結果と考察

小、中、高校生、および成人男子の各年齢別に、大都市に住んでみたいと思うかを調べてみると、表1に示すとおり、高校生までは年齢が上がるに従ってそう思う者の割合が上昇するが、大人になるとそう思う者の割合は減少する。高校生では、9割近くの者が、一度は大都市に住んでみたいと考えており、大都市への憧れは非常に高い。

そこで、このような大都市へのあこがれがどのような要因によって決定されているかを検討するために、大都市居住希望を従属変数に（住みたい／住みたくない）し、大都市および自分が住んでいる都市へのイメージを独立変数として、数量化Ⅱ類を用いて検討を行なった（表2）。

まず、小学生から成人までを一緒にして、大都市居住希望と都市のイメージとの関係を検討した。その結果、全体でみると大都市居住希望に関係しているのは大都市が「好きだ」、「楽しい」、「遊ぶところが多い（いいえ）」、「よい学校がある」、「のびのびした」などであり、一つを除くとそう思うことが大都市居住希望と結びついている。また、現在の居住都市を「外国のようだ」、「食物の種類が多い」と思わないことが大都市への居住希望と結びついている。

ところが、大都市居住希望と都市のイメージとの関係を年齢別にながめてみると、その年齢によって関係するものがさまざまに異なっているのが分かる。各年齢で共通しているのは、大都市が「好きだ」、「楽しい」、「夢がある」と思うこと、および住んでいる土地の「食物の種類が多い」と思わないことなどだけである。

表1 大都市居住希望者の割合

	N	はい	いいえ	どちらとも
全体	1,838	84.5	27.2	8.1
小学	447	69.6	21.3	8.9
中学	491	71.9	16.5	11.5
高学	489	85.1	10.2	4.5
成人	411	25.5	66.7	7.3

表2 地方居住者の大都市居住希望の要因分析—大都市居住希望を外的要因とした数量化Ⅱ類の結果

		全 体	小 学 生	中 学 生	高 校 生	成 人
相 関 比		0.288	0.277	0.334	0.283	0.313
大 都 市 の イ メ ー ジ	楽しい	0.925	0.455	0.873	0.362	0.622
	生活しやすい	0.245	0.020	0.193	0.029	0.709
	文化程度が高い	0.244	0.729	0.313	0.354	* 0.089
	遊ぶところが多い	* 0.372	* 0.331	0.017	0.228	* 0.248
	よい学校がある	0.339	0.683	* 0.251	* 0.133	0.005
	よい働き口がある	0.026	0.433	0.052	* 0.014	0.195
	わずらわしくない	* 0.173	* 0.040	0.188	* 0.193	* 0.607
	こわい	0.231	0.006	0.528	0.101	0.300
	ごみごみしている	* 0.285	* 0.016	* 0.045	0.368	* 0.659
	人が冷たい	* 0.047	* 0.141	* 0.081	0.153	* 0.364
	生活しにくい	* 0.128	* 0.121	* 0.326	* 0.214	0.589
	健康的でない	0.053	0.090	0.139	* 0.097	0.641
	犯罪が多い	* 0.006	0.226	0.418	* 0.504	* 1.967
	公害が多い	0.180	* 0.521	0.292	* 0.000	1.759
	夢がある	0.077	0.551	0.327	0.343	0.294
	のびのびとした	0.320	0.212	* 0.114	0.219	0.870
	好きだ	0.997	0.493	0.613	1.282	0.769
きれいだ	* 0.309	* 0.052	* 0.022	* 0.392	* 0.130	
交通が便利	* 0.169	0.080	0.080	* 0.256	* 0.887	
外国のようだ	0.106	0.230	0.164	0.341	* 0.011	
食物の種類が多い	* 0.076	0.089	0.200	* 0.100	0.032	
立派な人が多い	0.051	0.130	0.168	0.234	0.091	
居 住 都 市 の イ メ ー ジ	楽しい	* 0.034	* 0.414	* 0.024	0.380	* 0.203
	生活しやすい	* 0.043	0.016	0.124	0.432	* 0.282
	文化程度が高い	* 0.119	0.026	* 0.213	* 0.374	* 0.108
	遊ぶところが多い	0.002	* 0.249	0.087	* 0.082	* 0.075
	よい学校がある	* 0.021	0.024	* 0.140	* 0.396	* 0.202
	よい働き口がある	* 0.113	* 0.363	* 0.174	0.030	* 0.011
	わずらわしくない	* 0.146	0.041	0.221	* 0.488	* 0.423
	こわい	* 0.280	* 0.338	* 0.509	* 0.098	0.067
	ごみごみしている	* 0.105	* 0.333	* 0.380	0.349	0.427
	人が冷たい	* 0.080	* 0.074	* 0.583	0.042	0.091
	生活しにくい	* 0.197	* 0.290	0.153	* 0.272	* 0.173
	健康的でない	0.146	0.079	0.400	0.316	0.023
	犯罪が多い	0.029	0.115	* 0.014	* 0.429	0.037
	公害が多い	* 0.032	* 0.358	* 0.181	* 0.370	0.182
	夢がある	* 0.017	* 0.033	0.272	0.263	* 0.220
	のびのびとした	* 0.003	* 0.409	* 0.400	* 0.174	0.383
	好きだ	0.216	0.686	0.075	* 0.261	0.325
きれいだ	* 0.184	* 0.401	* 0.180	* 0.191	0.329	
交通が便利	* 0.161	* 0.009	* 0.108	* 0.484	0.013	
外国のようだ	* 0.314	* 0.507	* 0.442	* 0.489	0.343	
食物の種類が多い	* 0.313	* 0.568	* 0.122	* 0.324	* 0.249	
立派な人が多い	0.073	0.236	* 0.237	0.260	0.020	

数値は、各項目の категория・ウエイトのレンジを表す。特に、大きな値には□を付けた。大都市居住を希望する者と希望しない者とを判別するための項目として、大都市のイメージ及び居住都市のイメージの計44項目への回答(はい/いいえ)を用いた。*は、大都市居住希望に、当該項目の「いいえ」が結びついていることを示す(大都市居住希望の予測値の正負の符号と当該項目の「いいえ」の категория・ウエイトが同符号になっている)。無印の場合には、「はい」の回答が結びついている。例えば、大都市のイメージの「楽しい」の「はい」が、また同じ「ごみごみしている」の「いいえ」が、大都市居住希望と結びついている。

特に、大都市への居住希望の強い高校生と成人とは関連のある項目が大きく異なる。成人の場合は、大都市への居住希望は大都市そのもののイメージと結びついていて（例えば、「のびのび」、「生活しやすい」、「ごみごみ（いいえ）」など、居住都市へのイメージにはあまり強くは結びついていない。それに対して、高校生では逆に、大都市への居住希望が現在住んでいる土地へのマイナスのイメージと結びついていて（例えば、「外国のようだ（いいえ）」「わずらわしくない（いいえ）」「交通便利（いいえ）」「よい学校（いいえ）」「文化程度高い（いいえ）」「ごみごみしている」など）、大都市のイメージで特に強い結びつきの見られるものは多くない。成人男子が大都市の特性にひかれて居住を希望しているのに対して、高校生は自分の住んでいる土地への反発から大都市への居住を希望しているように見える。

しかし、両者の場合も、必ずしも大都市へのプラスのイメージだけ、住んでいる土地へのマイナスのイメージだけが、大都市への居住希望と結びついている訳ではない。大都市へ居住することを希望する成人でも、大都市を「公害が多い」、「交通が便利（いいえ）」、「わずらわしい」とも考えている。また、高校生の場合でも、大都市への居住を希望していながら、自分の住んでいる土地を「生活しやすい」、「楽しい」と感じており、大都市に住んでみたいとする気持ちの中にも居住都市志向というアンビバレントな感情が存在することがうかがえる。

3. 大都市評価の再検討

3.1 目的

我々は、都市イメージの分析Ⅰ～Ⅱにおいて、都市イメージ、居住地イメージに関して、年齢、在住地、性の要因について分析を行ってきた。年齢としては、小学5年（11才）、中学2年（14才）、高校2年（17才）、成人（41才）の4グループ、地域としては、北海道函館市、茨城県水戸市、鹿児島県喜界町および名瀬市の4ヶ所であった。得られた結果としては、①大都市に共通して認めら

れるイメージは、「文化の程度が高い」「こわい」「人が冷たい」「生活しにくい」「きたない」「交通が便利」「立派な人が多い」など15項目、②年齢差としても若年時には大都市へのあこがれから大都市居住の希望が強いが、生活基盤を地方にしている成人にあっては大都市へのあこがれは低下する。③居住している地域の規模が大きい程、都市イメージは悪くなり、大都市から離れる程イメージはよくなるなどの結果が得られた。

これらの結果をふまえて、今回は地方都市で日本海側にある都市と地方の離島を対象として、前回までの結果の確認と、日本海側の人々のもつイメージの分析、親子のイメージの類似性といったものを分析する。

3.2 方法

(1) 調査項目について

「大都市」および「いま住んでいる所」についてどんなイメージを持っているかを中心に32項目のアンケートを用いた。項目内容としては、「楽しい」「生活しやすい」「こわい」「好き」などSD法による32のイメージ調査をはじめとして、大都市居住希望、居住住民に対するイメージ、居住地に対する愛着、習慣、考え方に関するものなどである。

(2) 調査対象について

調査対象は、鳥取県鳥取市の小学生、中学生、長崎県壱岐郡の小学生、中学生、高校の生徒および、その父親と母親である。全体で15のサブグループになるが、それぞれの有効サンプル数が100以上になるようにした（鳥取の小学生の父親だけは100をわたった）。各群のサンプル数は表1のとおりである。鳥取市は人口約13万人の中規模都

表1 調査サンプルの数()内は年齢

	子 供	父 親	母 親
壱 岐	小学生 126(小5)	109(40.27)	123(38.0)
	中学生 135(中2)	124(45.3)	137(41.4)
	高校生 149(高2)	129(47.7)	142(45.2)
鳥 取	小学生 110(小5)	87(40.9)	101(37.8)
	中学生 131(中2)	106(43.3)	119(40.5)

表2 父親の職業 (%)

	壱岐 (小学生)	壱岐 (中学生)	壱岐 (高校生)	鳥取 (小学生)	鳥取 (中学生)	全体
1. 農業・林業・漁業	15.0	27.6	45.2	1.3	2.9	19.9
2. 商工自営・サービス業	28.0	15.3	13.9	12.8	16.7	17.4
3. 個人営業	3.0	1.0	2.6	0.0	0.0	1.4
4. 会社・団体役員	11.0	6.1	10.4	10.3	4.9	8.5
5. 管理的職業	0.0	3.1	0.9	2.6	2.9	1.8
6. 専門・技術職	7.0	6.1	5.2	10.3	9.8	7.5
7. 上記以外の専門・技術職	7.0	9.2	3.5	15.4	10.8	8.7
8. 事務職の課長以上	3.0	4.1	2.6	3.8	6.9	4.1
9. 上記以外の事務職	10.0	7.1	6.1	10.3	7.8	8.1
10. 販売・サービス業の課長以上	1.0	1.0	1.7	5.1	4.9	2.6
11. 上記以外の販売・サービス業	2.0	4.1	1.7	10.3	7.8	4.9
12. 製造工程・現場作業	4.0	10.2	2.6	15.4	17.6	9.5
13. その他	6.0	5.1	2.6	1.3	6.9	4.5
14. 仕事は持っていない	3.0	0.0	0.9	1.3	0.0	1.0
	(N=100)	(N=98)	(N=115)	(N=78)	(N=102)	(N=493)

表3 鳥取地区の父親の最終学歴 (%)

	鳥取 (小学生)	鳥取 (中学生)	全体
1. 小学生	2.4	4.5	3.4
2. 新制中学(旧制高等 小学生)	24.4	26.9	25.5
3. 新制高校(旧制中学, 高等女学校など)	58.5	44.8	52.3
4. 大学・短大・高専 (旧制高等学校)	14.6	23.9	18.8
	(N=82)	(N=67)	(N=149)

市である。壱岐のデータは郷の浦地区のものであるが、人口約14,000人の小都市である。なお、各地のデータは、小、中、高校生とそれぞれに対応する父母のものであるが、どちらかのデータに欠損がある場合には、そのみを除外したので親子でデータ数に違いがある。

(3) 調査方法と調査期日

アンケートの配布と回収は各地の学校に依頼して行なった。両親用は、生徒の持ち帰りとし、回収は各校にまかせた。調査期日は、鳥取調査が昭和29年11月、壱岐調査が昭和59年12月であった。

3.3 結果と考察

(1) 大都市と今住んでいる所への評価

大都市と今住んでいる所への評価を5つの項目についてたずねた。その結果、大人の場合はどの層の父母も回答がほぼ共通している。大人は、「住む場所としてここがよい」「ここは住みよい」と答える者が8割前後である。また、大都市に対しては好意的な反応とそうでない反応がほぼ半々である。それに対して、子供では学齢が上がるに従って、自分の住んでいる所への評価が低下し、大都市へのあこがれが上昇する傾向が認められた。

(2) 大都市のイメージ

今回の結果から、大都市のイメージとして認められるものは、「犯罪が多い」「公害が多い」「ごみごみしている」「危険」「空気が汚い」「生活しにくい」などの否定的なイメージと、「派手」「明るい」「忙しい」などの活動的なイメージとに分けられる。これらのイメージの中で、「生活しやすい」「明るい」などの評価的なものが含まれる項目については、大人より子供のほうが肯定的なイメージを抱いており、また、学齢が上がるに従って、イメージが肯定的になっている。

表4 「大都市と住んでいる場所」に対する意見 (%)

	壱岐(小学生)			壱岐(中学生)			壱岐(高校生)			鳥取(小学生)			鳥取(中学生)			
	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	
Q2.仕事をす る場所とし て	1.大都市	31.2	35.5	34.7	35.8	31.8	35.2	58.4	28.9	29.6	15.5	24.4	21.8	32.6	26.4	28.6
	2.ここ	39.2	44.9	39.7	23.9	46.7	37.6	10.1	53.9	38.5	46.4	60.5	47.5	27.9	56.6	43.7
	3.わからない	29.6	19.6	25.6	40.3	21.5	27.2	31.5	17.2	31.9	38.2	15.1	30.7	39.5	17.0	27.7
Q3.住む場所 として	1.大都市	16.8	5.6	9.9	20.1	8.4	11.2	25.5	5.5	9.6	7.3	1.2	5.0	15.5	5.7	2.5
	2.ここ	71.2	80.4	77.7	53.7	82.2	74.4	34.2	88.3	84.4	72.7	87.2	80.2	52.7	81.1	79.0
	3.わからない	12.0	14.0	12.4	26.1	9.3	14.4	40.3	6.3	5.9	20.0	11.6	14.9	31.8	13.2	18.5
Q4.大都市に 住んでみた いか	1.はい	62.4	42.1	48.8	76.9	45.8	46.4	88.6	39.4	47.8	40.9	40.5	38.6	66.9	26.4	41.2
	2.いいえ	24.8	47.7	43.8	14.2	42.1	40.0	3.4	52.8	38.1	38.2	54.8	54.5	13.1	62.3	49.6
	3.わからない	12.8	10.3	7.4	9.0	12.1	13.6	8.1	7.9	14.2	20.9	4.8	6.9	20.0	11.3	9.2
Q5.ここは住 みよい所か	1.	87.2	80.2	77.5	75.4	79.4	81.5	65.1	77.3	78.5	87.3	68.6	76.2	61.5	77.4	77.3
	2.いいえ	5.6	8.5	11.7	7.5	10.3	8.9	9.6	10.9	14.1	4.5	15.1	9.9	6.9	12.3	12.6
	3.わからない	7.2	11.3	10.8	17.2	10.3	9.7	25.5	11.7	7.4	8.2	16.3	13.9	31.5	10.4	10.1
Q6.大都市に 憧れを感じ るか	1.とても	11.2	4.7	0.8	10.4	0.9	3.3	20.1	3.1	2.2	9.1	3.5	3.0	12.4	0.0	2.6
	2.ある程度	40.0	19.6	36.4	47.8	27.4	28.1	51.0	21.3	32.1	22.7	16.3	21.8	46.5	21.8	27.8
	3.あまり	40.0	51.4	43.0	37.3	47.2	46.3	25.5	44.1	46.3	40.9	51.2	45.5	37.2	49.5	50.4
	4.ぜんぜん	8.8	24.3	19.8	4.5	24.5	22.3	3.4	31.5	19.4	27.3	29.1	29.7	3.9	28.7	19.1

注：数字は各カテゴリーに反応した者のパーセントを表している。

(3) 今住んでいる所のイメージ

今住んでいる所のイメージは全体的に肯定的なものが多い。「空気がきれい」「自然が美しい」「気候がおだやか」(壱岐のみ)「公害が少ない」など自然や空気の美しさなどの評価が高い。また、「犯罪が少ない」「安全」「生活しやすい」や「人が暖かい」「親しみやすい」「好き」などのイメージ項目も高い。しかし、大都市のイメージの場合と対応して、「好き」「生活しやすい」など評価的な項目については、子供より大人が、また、学齢

が高くなるに従って今住んでいる所に対してイメージが否定的になってくる。

(4) 大都市とこの町の人々のイメージ

自分の住んでいる町の人々のイメージは「暖かい」「付き合いやすい」「好き」などのように肯定的である。それに対して、大都市の人々のイメージは「信用できない」をはじめ表6にあるように7項目中6項目で否定的評価を受けている。わずかに「センスがよい」で高い評価を受けている。

表5 地区別にみた「大都市といま住んでいる所のイメージ」に関する3者間(子供・父親・母親)比較

	沓岐(小学生)			沓岐(中学生)			沓岐(高校生)			鳥取(小学生)			鳥取(中学生)			
	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	
大 都 市 の イ メ ー ジ	1.つまらない	2.32	2.66	2.70	2.28	2.93	2.83	2.21	2.70	2.62	2.83	3.09	2.69	2.30	2.92	2.71
	2.しゃれた	3.80	3.48	3.79	3.77	3.37	3.58	3.90	3.55	3.74	3.49	3.75	3.97	3.52	3.57	3.85
	3.親しみやすい	3.61	3.59	3.74	3.64	3.79	3.83	3.64	3.93	3.84	3.69	4.05	3.94	3.43	3.64	3.54
	4.深みのある	2.39	2.57	2.41	2.60	2.51	2.51	2.46	2.52	2.37	2.53	2.49	2.28	2.90	2.42	2.59
	5.嫌い	2.72	3.17	3.16	2.50	2.94	3.14	2.67	3.28	3.14	3.39	3.27	3.28	2.55	3.16	3.12
	6.明るい	4.38	3.32	3.43	3.91	2.98	3.39	3.78	3.18	3.30	3.36	3.32	3.47	4.05	3.28	3.44
	7.忙しい	4.21	4.39	4.36	4.34	4.40	4.52	4.56	4.44	4.31	4.15	4.48	4.59	4.35	4.37	4.55
	8.派手な	4.20	4.42	4.47	4.46	4.33	4.33	4.63	4.30	4.48	4.31	4.42	4.46	4.36	4.26	4.42
	9.冷たい	3.41	4.17	4.09	3.74	4.10	4.17	3.98	4.00	4.02	3.64	4.05	4.12	3.72	3.85	3.94
	10.柔らかい	2.10	2.46	2.48	2.34	2.68	2.57	2.42	2.56	2.68	2.06	2.78	2.84	2.40	2.90	3.02
	11.安定した	2.33	2.18	2.12	2.45	2.35	2.21	2.74	2.43	2.30	2.34	2.31	2.28	2.57	2.40	2.27
	12.複雑な	3.54	3.93	4.08	4.12	3.89	4.03	4.14	4.21	4.04	3.66	4.10	4.13	4.00	3.92	4.06
	13.広い	3.66	3.39	3.05	3.09	3.28	3.25	2.91	3.28	3.22	3.07	3.24	3.01	2.62	3.14	3.16
	14.生活しにくい	4.00	3.61	3.38	3.84	3.35	3.33	3.32	3.56	3.31	4.03	4.00	3.73	3.48	3.63	3.41
	15.文化の程度が低い	2.07	1.89	1.78	1.82	1.75	1.82	1.74	1.77	1.60	2.35	2.01	1.96	1.97	1.90	1.94
	16.遊ぶところが少ない	3.42	2.15	2.08	2.86	1.92	2.16	2.21	1.86	1.93	3.49	1.84	1.98	2.89	1.83	1.75
	17.よい働き口が少ない	2.21	1.82	1.76	2.25	1.96	1.82	1.92	1.66	1.64	2.42	1.89	2.16	2.17	1.93	2.03
	18.人間関係がわずらわしくない	2.39	2.97	3.28	2.17	3.08	3.29	2.65	3.10	3.28	2.36	2.81	2.95	2.35	3.03	2.97
	19.安全	1.64	1.62	1.45	1.54	1.66	1.54	1.78	1.71	1.47	1.64	1.71	1.59	1.76	1.83	1.52
	20.整然としている	1.70	1.38	1.27	1.43	1.41	1.33	1.54	1.52	1.43	1.67	1.48	1.42	1.75	1.47	1.35
	21.人が暖かい	2.11	1.76	1.74	1.98	1.71	1.85	2.16	1.89	1.93	2.17	2.10	1.96	2.26	2.00	2.24
	22.犯罪が少ない	1.43	1.27	1.36	1.40	1.35	1.30	1.52	1.47	1.32	1.55	1.51	1.46	1.57	1.51	1.47
	23.公害が少ない	1.41	1.31	1.26	1.25	1.30	1.30	1.35	1.39	1.28	1.46	1.43	1.22	1.53	1.30	1.32
	24.交通が不便	2.59	1.69	1.43	2.58	1.65	1.46	1.43	1.48	1.34	3.06	1.43	1.36	2.15	1.45	1.40
	25.買い物が不便	2.11	1.44	1.45	1.72	1.57	1.50	1.34	1.43	1.47	2.42	1.59	1.57	1.90	1.58	1.54
	26.街並が汚い	2.90	2.44	2.53	2.81	2.42	2.46	2.48	2.34	2.49	3.29	2.95	2.70	2.69	2.79	2.67
	27.空気が汚い	4.37	4.42	4.52	4.55	4.50	4.37	4.35	4.45	4.58	4.54	4.61	4.63	4.47	4.49	4.61
	28.家が高い	3.04	1.86	1.73	2.13	1.86	1.83	1.89	1.88	1.65	2.43	1.71	1.85	2.28	1.69	1.79
	29.孤独な人が少ない	2.62	1.95	1.67	2.21	1.88	1.84	2.25	2.02	1.93	2.29	2.19	1.98	2.58	2.08	1.95
	30.自然が美しくない	4.37	4.19	4.19	4.36	4.10	4.12	4.12	4.15	4.10	4.47	4.15	4.13	4.12	4.13	4.09
	31.気候が厳しい	3.66	3.35	3.31	3.33	3.48	3.32	3.15	3.31	3.38	3.16	2.69	2.55	2.78	2.42	2.57
	32.食べ物がまずい	2.99	2.83	2.71	3.13	2.76	2.73	3.04	2.78	2.87	3.48	3.11	2.96	3.06	3.01	2.81
い ま 住 ん で い る 所 の イ メ ー ジ	1.つまらない	1.68	2.20	2.23	2.31	2.40	2.47	2.86	2.50	2.60	1.58	2.50	2.65	2.63	2.69	2.65
	2.しゃれた	2.72	2.51	2.71	2.70	2.80	2.75	2.33	2.70	2.60	2.86	2.62	2.59	2.59	2.61	2.60
	3.親しみやすい	1.51	1.82	1.77	1.66	1.88	1.78	1.87	1.74	1.81	1.59	1.99	2.04	2.00	2.18	2.33
	4.深みのある	3.83	3.49	3.72	3.58	3.52	3.58	3.61	3.72	3.63	3.69	3.54	3.53	3.30	3.29	3.43
	5.嫌い	1.52	1.96	1.89	1.98	2.16	2.06	2.38	1.94	2.00	1.62	2.12	2.12	2.36	2.14	2.19
	6.明るい	4.14	3.66	3.88	3.72	3.48	3.84	3.19	3.67	3.75	4.00	3.05	3.13	2.89	3.09	3.02
	7.忙しい	1.97	1.94	1.85	2.09	2.04	1.95	1.86	2.18	2.22	2.15	2.04	1.94	1.91	2.18	2.07
	8.派手な	2.65	2.20	2.05	2.43	2.22	2.26	2.10	2.06	2.12	2.69	2.09	2.26	2.25	2.23	2.19
	9.つめたい	1.57	1.88	1.87	1.88	1.87	1.95	1.86	1.87	1.81	1.85	2.24	2.18	2.15	2.29	2.24
	10.柔らかい	4.20	3.30	3.36	3.80	3.27	3.36	3.57	3.61	3.31	3.98	3.14	2.98	3.63	3.00	2.92
	11.安定した	4.06	3.45	3.61	3.70	3.57	3.59	3.36	3.47	3.50	3.97	3.48	3.47	3.58	3.30	3.63
	12.複雑な	2.19	2.47	2.56	2.28	2.32	2.52	2.40	2.20	2.51	2.53	2.58	2.52	2.40	2.54	2.67
	13.広い	2.79	2.68	2.84	2.96	2.79	2.77	3.01	2.70	2.80	3.31	2.87	2.71	3.07	2.81	2.57
	14.生活しにくい	1.44	2.45	2.30	1.92	2.24	2.22	2.39	2.55	2.25	1.38	2.30	2.22	2.13	2.48	2.36
	15.文化の程度が低い	3.28	3.55	3.20	3.49	3.45	3.46	3.52	3.65	3.59	3.10	3.38	3.46	3.53	3.30	3.40
	16.遊ぶところが少ない	2.10	3.48	3.56	2.77	3.84	3.60	3.51	3.67	3.83	2.05	3.74	3.91	3.08	3.58	3.83
	17.よい働き口が少ない	3.23	4.42	4.39	3.97	4.35	4.54	4.21	4.39	4.52	2.81	4.06	4.12	3.49	4.16	4.13
	18.人間関係がわずらわしくない	3.79	3.07	2.77	3.50	2.88	2.61	3.14	3.13	2.74	3.93	2.77	2.76	3.51	2.90	2.81
	19.安全	4.48	4.06	4.13	4.37	4.23	4.20	3.99	4.24	4.28	4.27	3.61	3.62	3.82	3.70	3.77
	20.整然としている	4.25	3.94	4.03	4.37	4.05	4.31	4.08	4.07	4.22	4.06	3.54	3.68	3.73	3.69	3.75
	21.人が暖かい	4.34	4.05	4.04	4.17	4.20	4.12	3.85	4.12	4.25	4.23	3.47	3.71	3.72	3.70	3.56
	22.犯罪が少ない	4.56	4.48	4.37	4.46	4.45	4.49	4.29	4.39	4.45	4.38	4.02	3.93	4.06	4.00	4.05
	23.公害が少ない	4.70	4.52	4.63	4.65	4.50	4.59	4.50	4.55	4.54	4.23	4.17	4.21	4.19	4.19	4.26
	24.交通が不便	2.78	3.59	3.87	3.12	3.62	3.87	4.19	3.92	3.88	2.58	3.97	3.51	3.30	3.65	3.68
	25.買い物が不便	2.63	3.45	3.19	3.38	3.37	3.30	4.04	3.62	3.71	2.28	3.02	2.87	3.02	2.95	3.11
	26.街並が汚い	2.02	2.90	2.56	2.56	3.02	2.82	2.83	3.00	2.77	2.01	2.70	2.72	2.82	2.80	2.85
	27.空気が汚い	1.24	1.47	1.26	1.32	1.29	1.41	1.54	1.36	1.42	1.48	1.42	1.52	1.80	1.52	1.58
	28.家が高い	3.36	3.61	3.63	3.74	3.87	3.79	3.81	3.96	3.99	3.71	3.34	3.24	3.39	3.37	3.32
	29.孤独な人が少ない	3.75	3.64	3.92	3.75	3.90	3.79	3.55	3.73	3.88	3.76	3.28	3.42	3.28	3.26	3.29
	30.自然が美しくない	1.30	1.45	1.38	1.37	1.33	1.46	1.47	1.59	1.41	1.45	1.57	1.68	1.92	1.73	1.60
	31.気候が厳しい	1.51	1.84	1.81	1.77	1.68	1.74	1.94	1.81	1.69	2.35	3.24	3.24	2.92	3.28	3.36
	32.食べ物がまずい	1.52	1.86	1.75	1.73	1.77	1.79	1.87	1.88	1.68	1.40	1.99	1.92	2.23	1.99	2.08

注：数字は各項目の平均値で、得点が高いほど項目に関するイメージが強いことを意味する。

表6 地区別にみた「大都市の人とこの町の人のイメージ」に関する3者間(子供・父親・母親)比較

		沓岐(小学生)			沓岐(中学生)			沓岐(高校生)			鳥取(小学生)			鳥取(中学生)		
		子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親	子供	父親	母親
大都会の人	嫌いだ	3.24	3.20	3.13	3.08	3.08	3.12	2.94	3.04	3.04	3.38	3.14	3.04	2.93	3.01	3.04
	付き合いにくい	3.62	3.47	3.47	3.40	3.36	3.29	3.09	3.32	3.23	3.71	3.24	3.31	3.02	3.06	3.01
	つまらない	3.40	3.22	3.11	3.18	2.95	2.99	2.95	2.94	3.01	3.49	3.07	2.96	2.94	3.15	3.00
	センスの悪い	2.39	2.27	2.09	1.95	2.33	2.06	2.09	2.38	1.88	2.86	2.48	2.23	2.20	2.45	2.22
	つめたい	3.64	3.71	3.69	3.69	3.69	3.65	3.35	3.57	3.48	3.84	3.56	3.51	3.28	3.52	3.26
	無関心	3.07	3.89	4.04	3.55	4.09	4.11	3.58	3.87	3.90	2.96	3.65	3.85	3.48	3.61	3.65
	信用できない	3.90	3.83	3.92	3.81	3.86	3.89	3.52	3.71	3.82	3.64	3.53	3.66	3.44	3.53	3.53
この町の人の	嫌いだ	1.56	2.31	2.33	2.05	2.42	2.38	2.37	2.23	2.26	1.72	2.51	2.64	2.43	2.59	2.65
	付き合いにくい	1.64	2.15	2.24	1.94	2.19	2.31	2.29	2.08	2.27	1.73	2.47	2.50	2.40	2.66	2.77
	つまらない	1.99	2.70	2.62	2.50	2.82	2.75	2.65	2.49	2.72	2.04	2.82	3.00	2.79	2.87	3.10
	センスの悪い	2.71	3.26	3.14	2.90	3.22	3.18	3.23	3.28	3.17	2.36	3.25	3.17	3.23	3.32	3.29
	つめたい	1.62	2.15	2.01	1.96	2.09	2.02	2.23	1.95	1.95	1.75	2.40	2.38	2.29	2.41	2.60
	無関心	2.81	2.29	2.21	2.58	2.22	2.03	2.48	2.23	2.07	2.68	2.64	2.43	2.78	2.72	2.76
	信用できない	1.78	2.41	2.38	2.26	2.39	2.45	2.47	2.25	2.30	1.98	2.65	2.63	2.56	2.66	2.81

注：数字は各項目の平均値で、得点が高いほど項目に関するイメージが強いことを意味する。

文献一覽

古澤照幸・詫摩武俊・加藤義明・山本真理子・川村久美子・菅原健介

1987 「都市イメージの分析Ⅳ その3 東京とその地域への心理的接近度の分析」日本教育心理学会29回大会 558

1988 「都市イメージの分析Ⅴ その2 大阪と対象地域への心理的接近度の分析」日本社会心理学会29回大会 212-213

1989 「都市イメージの分析Ⅵ その2 東京イメージと大阪イメージの各指標得点の分析」日本社会心理学会30回大会発表予定

林洋一・加藤義明・詫摩武俊・山本真理子

1985 「都市イメージの分析Ⅲ-その2・研究の結果と考察」日本教育心理学会大会558-559

加藤義明

1984 「都市イメージの分析Ⅰ」『都立大学人文学報』No. 168 75-107

1988 「環境認知と都市イメージ」(文部省科学研究費研究)

加藤義明・本間道子・松井豊

1981 「集合住宅住民の居住意識に関する研究-住み

心地を構成している要因について-東京都立大学人文学報 145号57-71

加藤義明・詫摩武俊・林洋一・山本真理子

1985 「都市イメージの分析Ⅲ-その1・研究の目的と方法」日本教育心理学会27回大会 p p 556-557

加藤義明・詫摩武俊・山本真理子・川村久美子・菅原健介・古澤照幸

1987 「都市イメージの分析Ⅳ その2 東京イメージの構造と発達の变化」日本教育心理学会29回大会556

1988 「都市イメージの分析Ⅴ その1 大阪イメージの構造と発達の变化」日本社会心理学会29回大会210-211

1989 「都市イメージの分析Ⅵ その2 東京イメージと大阪イメージの構造」日本社会心理学会30回大会発表予定

加藤義明・山本真理子

1984 「都市イメージの分析Ⅱ-地方居住者が大都市にたいしていただくイメージの構造-」日本教育心理学会26回大会 p p 506-5

倉沢進 1968 「日本の都市社会」福村出版

- Lynch, R. A. 1960 *The image of the City* Cambridge, Massachusetts: MIT Press
と方法」日本教育心理学会29回大会 p 554
山本真理子・加藤義明
- 鈴木栄太郎 1957 「都市社会学原理」有斐閣
1984 「都市イメージの分析Ⅱ—大都市居住希望を決定する要因の決定」日本教育心理学会26回大会 p p 508—509
- 詫摩武俊・加藤義明・山本真理子・川村久美子・菅原健介・古澤照幸
1987 「都市イメージの分析Ⅳ その1 調査の目的

Key Words (キー・ワード)

The city (都市) The big city (大都市) The image of the city (都市イメージ) The SD method (SD法) The comfortableness (住みやすさ)

EVALUATION OF BIG CITIES BY COUNTRY PEOPLE

Noriaki Kato*, Taketoshi Takuma*, Mariko Yamamoto**, Yoichi Hayashi***

*Center for Urban Studies, Tokyo Metropolitan University

**Teikyo College of Technology

***Shirayuri women's College

Comprehensive Urban Studies, No.37, 1989, pp.41-52

This thesis is a concise version of four academic presentations. It consists of three major studies :

Study 1 : The image structure of the big city

Study 2 : The yearning for big cities and the desire to live there

Study 3 : Confirming the evaluation of big cities

For studies 1 and 2, we conducted a questionnaire survey on elementary school children and middle and high school students, 1,427 in all, in Hakodate, Mito, Nase and Kikai. Also, 411 adult men from those areas answered similar questionnaires. For study 3, we gathered data from 615 elementary school children, middle and high school students, and 1,828 adult men and women in Tottori and Iki.

The questionnaire was the same as we used in "The country people's image of the big city" described above. Its focus were twenty-two questions on people's impressions of the big city and their home town.

These are the main results in brief: From the structural analysis of the big city image according to quantification theory III, we obtained five axes: "comfort", "disadvantage", "inconvenience", "emancipation", and a fifth one we were unable to define.

Combining the first two axes showed that high school students and grown-up men hold totally different images. While school students saw the city as a comfortable place to live in, grown-up men did not. Also, people living close by a large city or in a populous area held a negative image.

People seeing the large city as pleasant and congenial, with a lot of entertainment and good schools, generally tended to have stronger desire to live there, but this correlation also depended on age and was rather different for high school students and grown-up men.

Among all groups, the high school students were the ones that had the strongest desire to live in the city, while grown-up men had the least. It can be inferred that the former wish to live in the big city out of dislike for their present living place and its bad image, while the latter are attracted by the special characteristics of the big city.

However, even among those who want to live in the big city, a significant number of high school students think that they live comfortably and pleasantly at present, and the grown-up men think of the city as polluted and irritating. This shows a certain ambivalence in the desire to live in the city and affection toward the present place of residence.

To confirm the results we obtained in the study of "The country people's image of the big city" and the first of this study, we conducted a similar survey in Iki and Tottori. The result was as follows:

The image of the big city was almost the same as in the other surveys, the negative factors being high crime rate, pollution, dirt, danger, air pollution, lack of beautiful nature, hard to live, etc. On the positive side, images like radiant, bright, and busy were prominent. The images of their own place of residence were also similar to the former studies, mostly favorable, but less so with rising age (up to high school students.)

Only regarding taste did the residents of the big city come out on top. Other than that, they were seen as boring, coldhearted, apathetic, unreliable, unsociable and antipathetic, the same as in the former studies.